

再発転移性結腸直腸癌における RAS 変異毎の予後を含む臨床的特徴への影響に関する研究

1. 研究の対象

2018 年 8 月から 2023 年 12 月までに当院で再発または切除不能結腸直腸がんに対して治療を受けた方

2. 研究の概要

研究期間: 総長の研究実施許可日～2025 年 3 月 31 日

研究目的: 切除不能・転移性結腸直腸がんに対して治療を開始する際に RAS、BRAF、MSI の検査を行い、その結果から最適な抗がん剤の組み合わせを選択します。その中の 1 つの RAS においては RAS 変異があると抗 EGFR 抗体療法の恩恵を受けにくいことが知られており、血管新生阻害剤を使用します。RAS の変異の種類によっては治療開発が進んでいる一方で、稀少な RAS 変異を有する症例に関しては予後などを示す報告が少ないことが現状です。今回、RAS の変異の違いによって予後や同様治療における差があるのか、臨床的特徴がないかを明らかにします。

研究方法: 研究対象者の方の診療録を後ろ向きに調査し、RAS 変異毎の予後や一次治療の有効性、転移様式などを評価します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報: 病歴、抗がん剤治療の治療歴、副作用等の発生状況、カルテ番号 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

大阪国際がんセンター 腫瘍内科 研究責任者 梶谷嘉起

住所: 〒541-8567 大阪府中央区大手前3-1-69

電話: 06-6945-1181

-----以上